

## 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所名	グループホームあかつきの里		
所在地	山口県下関市汐入町36-6		
電話番号	083-222-3202	事業所番号	3570100713
法人名	社会福祉法人 暁会		

訪問調査日	平成 22 年 1 月 20 日	評価確定日	平成 22 年 8 月 31 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

### 【情報提供票より】

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人 非常勤 4 人 (常勤換算 8.5 人)	

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	~ 2 階部分

#### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 25,350 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
その他の費用	月額 5,900 円			
	内訳 光熱水費			

#### (4) 利用者の概要 (1月20日現在)

利用者数	8 名		男性	名	女性	8 名
	要介護1	1	要介護4	0		
	要介護2	2	要介護5	0		
	要介護3	5	要支援2	0		
年齢	平均 82.3 歳	最低 73 歳	最高 93 歳			

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科 昭和病院
	歯科 昭和病院

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

#### (優れている点)

職員は利用者一人ひとりのその人らしい姿を大切にすることを大事にしておられ、利用者一人ひとりと暮らしを共にする寄り添うケアの実践を心がけておられます。また、利用者の思いや願いを把握するために、センター方式を取り入れたり、生活日誌や介護記録が生き生きとした表現で記入されているなど、利用者がよりよく暮らししていくための記録を良く整備されています。

#### (特徴的な取組等)

自分で編んだセーターを着ている方は、編み物の話をすると生き生きとされ、排泄に問題がある方には、大好きな歌手の曲を聞いてもらって、排泄のこだわりを忘れてもらうなど、「本人が生きることへの支援」という関わり方、ケアのあり方とは何かを職員はいつも考え利用者一人ひとりに合った楽しみごとや役割の場面づくりを数多く提供しておられます。

### 【重点項目への取組状況】

#### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

具体的な避難経路、利用者に合わせて移動の手順等については、消防署の指導や事業所独自の職員中心の訓練の実施に取り組まれています。運営推進会議のメンバーについては、各種立場の方に声かけ、お願い中で、評価結果に対して前向きに取り組んでおられます。

#### (今回の自己評価の取組状況)

自己評価書をコピーして全職員に配布し、記入後に、副主任2人とケアマネージャーでまとめ、全職員と話し合い、確認後に提出しておられます。各職員の意見の違いやケアの見直しなど、評価を通して、業務の振り返りをしておられます。

#### (運営推進会議の取組状況)

運営推進会議は、市職員、地域包括支援センター職員、民生児童委員、福祉委員、自治会代表、家族会代表、職員で構成され、年に4回開催し、利用者やサービスの状況報告の他、外部評価結果で明らかになった課題について説明し、参加者からの意見、助言等をいただき、サービスの向上に努めておられます。

#### (家族との連携状況)

毎月発行のホーム便り、金銭管理上の報告、暮らしぶり等の手書きのメモを送付するとともに、各種行事への参加の呼びかけをしておられます。遠方の家族への電話連絡、面会時の報告や電話での状況報告もしています。異動等については、ホーム便り、面会時に紹介しておられます。

#### (地域との連携状況)

自治会加入、夏祭り、地域清掃、海岸清掃に参加され、マラソン大会のボランティアとして職員が参加しておられます。法人の夏祭りには、地域の方が参加され、ケアハウス、デイサービスとの交流やボランティアの受け入れ等で地域の人々との交流に努めておられます。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「家庭的な雰囲気の中で、自由に楽しく、穏やかな生活を送れるよう地域との関わりを深め、ぬくもりのあるケアを提供します」という事業所独自の理念を作成し、新たな地域密着型サービスを目指している。	
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	現行の運営理念はホーム内に掲示され、朝礼時などで確認はしているが、職員全体として新たな理念の共有までには至っておらず、実践に向けての日々の取り組みにも徹底されていない。	・職員全体での理念の共有と実践に向けての日々の取り組みの実施
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域住民の一員として自治会に加入し、夏まつり、海岸の清掃や海峡マラソンへのボランティアの参加など地域の行事に参加している。利用者は併設のケアハウスの住民からの声かけやボランティアの訪問など、日常的な交流が続いている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員共に、自己評価や外部評価を実施することがサービスの改善につながることを充分理解している。今回は自己評価表を職員全員に配布し、記入してもらい後日結果を持ち寄って話し合い、具体的な改善に向けて取り組んでいる。	
5 (10)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議では利用者の日々の活動内容やサービスの状況報告のほか、自己評価の内容や評価結果で明らかになった課題について説明し、参加者から意見、助言等をいただきながら、サービスの向上に努めている。	
6 (11)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外では、事故報告書の提出時や市役所に立ち寄ったときに、互いの情報交換を行っており、相談にもなっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待した項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月1回、利用者の暮らしぶりや行事の様子を載せたホーム便りを金銭報告書と共に送付している。また、家族の訪問時には利用者の健康状態などを話しており、遠方の家族には定期的に電話で状況報告をしている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の訪問時や電話、家族会の開催時等で、意見や要望などを聞いており、その内容を運営に反映させている。また苦情相談窓口及び担当者、第三者委員、外部機関を明示しており、苦情処理の手続きも明確に定めている。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の要望に柔軟な対応ができるよう、職員全員で話し合い勤務調整をしている。外出時には、人数を増やし、マンツーマンでの対応を心がけ、緊急の場合には法人からの協力体制も整っている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は利用者や職員がなじみの関係を続けられるよう職員の異動や離職は最小限に抑える努力をしており、新しい職員の採用時には日勤や夜勤などにおいて重複対応しながら、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は、勤務経験や段階に応じて受けることができるよう配慮され、法人内での研修への参加やその報告会、事業所独自の学習会など、職員が学ぶ機会を確保している。管理者は職員の資格取得に対しても、積極的に受けるよう勤めている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修などに参加しているが、近郊の事業所の職員同士の交流や積極的な情報交換までには至っていない。同一法人内での職員との交流は行っている。	・地域の同業者との勉強会や相互交流の促進

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用前に、家族と一緒にホームを見学してもらっている。職員や他の利用者と一緒に過ごす中で、普通の暮らしを体感してもらい、本人が納得した上でサービスの利用をすすめている。入居後は、家族と良く連絡を取り合うように心がけている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は、利用者から学ぶということを大切にしており、できるだけ利用者に寄り添いながら、日常の家事やレクリエーションを行い、支えあう関係を作っている。料理を作るときには、ちょっとした調理の技を利用者から教えてもらうなど、日々を楽しく過ごせるよう努めている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々のかかわりの中での声かけやセンター方式の利用、ケース記録、生活日誌の記録等で、一人ひとりの過ごし方、心身の状態を含めて、本人の希望、意向の把握に努めている</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者には日頃の関わりの中で思いを聞き、家族には訪問時などに意見を聴いたり、月1回のカンファレンスでは、それぞれの意見を反映しながら職員全体での意見交換やモニタリングを通して介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月ごとに介護計画を見直しているほか、サービス状況等については毎月カンファレンスを行っている。変化が生じたり見直しが必要な場合は、ケース記録の状況、家族からの要望を併せて検討し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>緊急時における医療連携体制、特別な外出の支援(買い物)、家族が行けない場合の通院介助の支援など、必要な時に必要なサービスを提供できるように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族の希望を大切に、協力医療機関による定期受診のほか、それぞれの病歴に関わる他の医療機関においても継続受診ができるよう支援している。その場合は情報提供も適切に行い、利用者が安心できる体制を整えている。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	早い段階から、重度化した場合における安心と安全を確保するために、本人、家族、主治医、職員、看護師と繰り返し話し合い、方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	スタッフ会議等で、特にプライバシーを損ねるような言葉や態度には気をつけるよう話し合っており、日々の関わりの中でも職員同士がお互いに気がついたことを確認しあっている。個人情報の取り扱いにも細心の注意を払い適切に管理している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できる限り本人のリズムや主体性を尊重することを大切にしており、その日、その時の一人ひとりの気持ちを尊重して、起床、食事時間、散歩など利用者の希望に沿っての柔軟な対応を心がけている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼食は法人からの配食となっているが、食事が楽しいものであるように、朝食、夕食、おやつを一緒に作り、盛り付け、片付け等も一緒にしている。利用者の好みを聞いて献立することもある。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	基本的には、冬は隔日で、他の季節は毎日、時間は14時から16時半頃までとなっている。入浴を嫌がる場合には、時間をずらしたり、工夫を凝らしての対応をしており、状況によってはシャワー浴、清拭の対応もしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日々の暮らしの中で、一人ひとりの出来る力を引き出し、日々の生活の張り合いとなるような場面作りを行っている。園芸や散歩、読書、カラオケ、食事の準備や片付け、編み物、芋ほり、畑作り、折り紙、ラジオ体操、パズル、ビデオ、洗濯物たたみ、室内ウォーキングなど、活力ある支援をしている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気のいい日には散歩に出かけており、利用者一人ひとりの状況に合わせて、買い物やドライブ(年2回の遠出、初詣、寺参り等)や外食などの外出を楽しめる計画を立て気分転換を図っている。	
(4)安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、職員全員で理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特にスピーチロックについては職員全体で気をつけるよう呼びかけている。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけておらず、鍵をかけることの弊害を職員は充分理解している。外出傾向のある利用者には、職員が気をつけ、さりげない声かけや、一緒について行くなど、安全に配慮した日々の暮らしを支えている。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々のヒヤリはっとなどを記録し、職員の共有認識を図っているが、一人ひとりの状態から予測される危険の検討や事故を未然に防ぐための工夫等にはいたっていない。	・利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止への取り組み
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得ての救急救命法の訓練の実施や、看護師からの指導もあるが、夜勤時の緊急体制や初期対応の訓練の実施はされていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に1回消防署の協力で利用者、職員全体での避難訓練を行っており、非常時に備えている。職員主体の防災訓練も年に数回実施しており、運営協議会でも議題として取り上げ、住民の協力が得られるよう啓発している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者一人ひとりの服薬内容が書かれたものはファイル化され、職員はきちんと把握している。服薬については、職員が名前を確認し、手渡しをして、飲み終えるまで確認をしている。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後に声かけを行い、利用者一人ひとりの力に応じて見守ったり、介助を行ったりしている。歯ブラシは早めの交換に努めており、歯科検診時には口腔ケアの指導なども受けている。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の摂取量や水分量はきちんと把握され、一人ひとりの状態に応じた栄養バランス、カロリーについては法人の管理栄養士の指導を年2回受けている。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症及び予防対応のマニュアルがあり、ノロウイルス、新型インフルエンザの研修も実施している。手洗いやうがいの励行、手摺りの消毒、ペーパータオルの使用、インフルエンザの予防接種を全員受けるなど予防に努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	茶碗を洗う音、料理の匂い、好きな歌曲、季節を感じる作品、手作りのカレンダーで五感の刺激や季節感を取り入れている。共用空間は広く、天窓での明り取りや食卓、ソファの配置も利用者の移動しやすい状態にしてあり、居心地よく、能動的に過ごせる工夫をしている	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真、好きな本、洋服ダンス、ソファ、イス、衣装掛けなどの使い慣れた家具や好みのものなど、生活スタイルに合わせて、穏やかに生活できる工夫をしている。また、居室の窓より見える海に沈む夕日も利用者の心を和ませている	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム あかつきの里
所在地	山口県下関市汐入町36-6
電話番号	083-222-3202
開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日

## 【サービスの特徴】

利用者・ご家族・職員が安全と安心の中で、共に支え合うことを目指してケアを行っています。手作りの物に囲まれた、温かい環境の中で、ゆったりとその人らしさを大切に...レベルの差がある9名ですが、さりげなくお互いを助け合い、生き生きした言動や、笑顔で過ごしていただく為の優しいケアを心掛けています。

## 【実施ユニットの概要】 ( 月 日現在)

ユニットの名称	グループホームあかつきの里			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	1	要介護 4	0
	要介護 2	4	要介護 5	0
	要介護 3	4	要支援 2	0
年齢構成	平均 83.5 歳	最低 72 歳	最高 96 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価書を職員全体に配り、利用者さまにとって安心感と信頼に向けた関係作りが出来ているか、又、その人らしい暮らしが支援出来ているかを客観的に見つめ直しながら、真摯な気持ちで取り組み評価した。
評価確定日	平成 21 年 12 月 日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を活かして、質の確保向上に努めながら改善に取り組んでいる。	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	サービスの実施や評価の報告・取り組みについての話し合いは行っており、又、会議を行うことで、当ホームのサービス状況も直接目にして頂き、参加者からの貴重な意見をサービスに活かしていけるように努めている。	メンバーの検討として、消防署員・交番職員に取り組みたい。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	推進会議以外の連絡は難しいが市の介護保険課の方とは、蜜に連絡を取りわからない事は指導を受けている。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	権利擁護については、現在利用されている利用者さんあり。生活支援員の方が来設されるので、アドバイスを頂く。	
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全職員、周知徹底している。常にマニュアルを手の届く所に置き日々の業務でも話題にし、未然防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書・重要事項説明書・パンフレットを用いて、誠意を持って対応する。理解・納得して頂けるまで、時間をかけ何度も説明するように心がけている。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情処理の手順は明文化されている。苦情相談の受付窓口は明示しており会議等も行っている。	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ホーム便り・金銭管理上の報告・暮らしぶりは手書きの手紙で毎月郵送している。面会時には、生活状況や健康面を話し、遠方のご家族には電話連絡している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	事業所として、情報開示に積極的に応じる意見と体制をもち、実際に開示要求があった場合は前向きに対応する。		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族がいつでも気軽に来られやすい様に心がけ、面会時・家族会・電話等で意見をいただいている。意見箱の設置・相談・苦情の窓口・外部機関・第三者委員を明示し、苦情処理の手続きも明確にしている。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議や職員代表者会議に参加し、職員の考えや意見を伝える機会を設けている。		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	一日の流れの中で、利用者の状況に合わせ柔軟な体制がとれるよう職員を確保している。勤務調整についても職員間で話し合い無理のないよう心掛けている。		
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は最小限に努め、やむを得ない異動や離職の場合は、馴染みの職員の異動によるダメージを防ぐ為1ヶ月の重複勤務を心がけ、利用者や家族への配慮に心掛けている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の経験や力量に応じて職員全員に研修の機会を確保し、外部研修は勤務の一環として交替で受ける。法人内研修も積極的に受講し共通理解と介護技術の向上に努めている。		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	30代から60代までの職員を配置しており、利用者の安心を確保しながら、利用者本位で出来ることの可能性を伸ばせるケアに努めている。		
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、同グループ内や地域の同業社と交流するための研修会も参加しサービスの向上に繋がるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の来所時等に希望を聞き、カンファレンスにて職員全員で意見や気づきを話し合ってる。	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎に見直し行っている。 入院や変化が生じた時には、その都度、会議を開き家族の意見も取り入れ、見直し行っている。	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の暮らしの様子や、本人の言葉を個別ファイルに記録している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	隣接の病院と医療連携体制を整えている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	中学生や高校生の体験学習を受け入れている。 自治会の集会に参加検討していたが現段階で参加できていない。	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ボランティア・ヘルパー・研修医等の積極的な受入れを行っている。	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて他のサービスが利用できるように、協力している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援  1. その人らしい暮らしの支援  (1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりを尊重し、プライバシーの保管を、全職員が徹底に確認。記録等個人情報は、他者の目につかないように所に保護し、鍵がしまる所に直しておく。	
57	<b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	言葉で十分意思表示できない時は、表情・行動での反応を観察し、側に寄り添いゆっくり話を聞いて、自分で意思決定出来るように支援している。	
58	<b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	家事や居室の清掃・衣類の整理整頓など見守り自主的に出来るよう定期的に声掛けをしながら支援している。	
59 (22)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合ではなく、そのひとらしい一日の過ごし方を理解して、本人本位の生活支援をしている。	
希望にあわせ			
60	<b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	希望にあわせ、利用者行きつけの美容院に行ったりビューティーヘルパーにきて頂き、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。	
61 (23)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しい物であるように、夕食を一緒に作ったり手作りのおやつを考えたりして、利用者と共に作っている。	
62	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの好みを把握して、一緒におやつを作り自宅にいるときと同じ様に、嗜好品を楽しめるように支援している。	
63	<b>気持ちのよい排泄の支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行っている。失敗されても傷付けない様回りに気遣い、プライドを傷付けない様に支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者に希望を聞き、生活リズムに合わせて入浴していただく。バイタルチェックを行い体調確認する。 1人で入りたい方には配慮して、声掛け・見守り・介助しながら入浴を楽しんで頂く。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	日々の体調・年齢等一人ひとりの睡眠時間を把握し、日中の活動量にて配慮する。疲労されていると感じるときには、昼寝や休憩を取っていただくよう支援する。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴を確認する事で、個々の生活リズムを大切にしながら滞在している記憶・出来る力を活かす場所作りをし、自分らしく暮らせて頂けるよう支援している。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員は理解しているが、金銭管理は出来ない方が多い。個人でお金を所持すると混乱してトラブルを招く。それによって不信感を生み出す傾向あり。 出来る力を大切に、買い物の際見守りにて支払う事あり。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、一人ひとり配慮をしながら周辺を散歩している。長時間歩行が出来ない方は、ベンチにて日向ぼっこ...等ストレスがたまらないように短時間でも戸外へ出る機会を作っている。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人ひとりの希望を知り、ご家族の協力を得て、墓参り・懐かしい場所・行きたい所に出かけられるように機会を作っている。		
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人が希望をされれば、いつでも利用可能である。手紙のやり取りについては、職員側からも声掛けし支援している。		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みの方には、いつでも気軽に訪ねていただいている。一緒にお茶を飲まれ、話をゆっくりして過ごして頂けるよう居心地の良い場面作りを支援する。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	付き添いの希望があれば、いつでも受け入れている。また、宿泊の依頼があれば、気持ち良く過ごして頂けるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		服薬前と服薬後に職員全員で確認
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		現在は以前より治療されているかたのみ月1回の歯科検診を行っている。今後は全員検討中。
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		マニュアルなどは、目のつくところに貼り出し、職員間、周知徹底している。手洗いうがい励行。
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関は常に清潔を保持し、絵や写真を飾り明るく人が出入り出来るように工夫している。下駄箱は、手作りのパッチワークで飾り、自分の下駄箱の位置をわかりやすくしている。玄関前には、季節の花を植え季節感をもし出している。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	生活感や季節感がわかりやすいように利用者とともに製作した壁飾りや、カレンダーを飾っている。一緒に出来る範囲で衣替えなどをして、安心して過ごせる様にしている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間の中に自分の席が決まっており、落ち着いて思い思いに過ごせるように工夫している。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使っていた家具や使い慣れた好みの物で、安心して穏やかに生活していけるように工夫している。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天気の良い日や、清掃時は窓を開け換気に気を配っている。季節やその日の天候に応じてエアコンの調整をして快適に過ごせるように努めている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるよう工夫している。	杖歩行者には、見守りや介助を行い、安全に移動出来る様に配慮している。滑りにくい床材を使用して安全に歩行できるようにしている。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレや居室の場所が自分で分かるように、目印の貼り絵や名札をしている。日付けが分かりやすいように、皆でぬり絵をした日めくりを見える場所において、食事時等に日付を確認している。	
97	<b>建物の外周リや空間の活用</b> 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前には、ひなたぼっこ用のベンチを置き、一緒に園芸を楽しんだり、シャボン玉をしたり、敷地内で野菜作りを行い、収穫を喜び合っている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいの	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどできていない